

繰越（翌債）を必要とする理由書

様式C-26
作成・確認のポイント

機関番号： 12345 研究機関名： ××××大学 研究代表者名： 科研 花子
課題番号： 25123456 平成25年度補助金交付額： 13,000,000 円（内訳：直接経費 10,000,000 円・間接経費 3,000,000 円）
繰越（翌債）承認要求額： 2,600,000 円（内訳：直接経費 2,000,000 円・間接経費 600,000 円）
※一部基金分のみ記入【補助事業に要する経費（H25）： 円（内訳：直接経費 円・間接経費 円）】

研究種目： 基盤研究(A) 研究課題名： ○○に関する研究 研究期間 25 年度 ～ 28 年度

当初計画及び変更後の計画		当初の研究計画
<当初計画>	<変更後の計画>	(研究概要)
H25.4 事前準備	H25.4 事前準備	※<当初計画>に即して、最終的に平成26年3月までに達成予定であった計画を時系列で記述すること。 平成25年8月までに、 △△評価実験及び▲▲解析を行い、 平成26年3月までに、 解析結果に基づき、■■を開発、評価の上、成果を取りまとめる 予定であった。
H25.5 ↓	H25.5 ↓	
H25.6 △△評価実験	H25.6 △△評価実験	
H25.7 ↓	H25.7 ↓	
H25.8 ▲▲解析	H25.8 ▲▲解析	
H25.9 ■■の開発	H25.9 △△評価実験の追加実施	
H25.10 ↓	H25.10 ↓	
H25.11 ↓	H25.11 ▲▲解析（追加実施分）	
H25.12 ↓	H25.12 再実験結果の評価	
H26.1 ↓	H26.1 ■■の開発	
H26.2 ■■の評価	H26.2 ↓	
H26.3 研究成果とりまとめ	H26.3 ↓	
		事由
		記号等 ⑦イ 研究方式の決定の困難
		(補足説明) 平成25年9月、△△評価実験、及び▲▲解析の結果、□□条件に予期しなかったばらつきが見られたため、予定よりもより多くの試料について、詳細な評価を実施する必要が生じた。
繰越事由の発生した時期	補助事業の完了時期	
平成25年9月	平成26年7月末（4ヶ月延長）	

左の<当初計画>に記入した
内容・時期を記入。

翌年度計画と繰越承認要求額
に大きな乖離はないか確認。

間接経費は、原則、直接経費
の30%相当額ですが、全額執
行済みや執行予定が決まっ
ている場合は、30%相当額未
満でも構いません。（※ 研究機関
の事務担当者に確認してくだ
さい。）

<記入上の留意事項>
○ファイルの書式（行数、列数、
幅等）、ファイルの形式は一切
変更しないでください。

○フォントは「MS明朝」を使用
してください。

○アルファベット、数字、記号
は、「半角」で入力してください。

○元号は、「H」を用いず、「平
成」としてください。（当初計画
及び変更後の計画欄を除く。）

<重要>
枠の4ヶ月間が繰越事由に該当。
それに要する期間のみ延長可
能。（繰越事由が発生した期間
の前後の月は、原則として計画
の内容・期間の変更ができません。）

（補足説明）欄では、繰越事由
が生じた理由、期間延長の妥
当性、計画の変更点について、
明確な説明が必要です。繰越
事由一覧や記入例、電子申請
システムのテキストを参考に作
成してください。

平成26年度継続課題については、平
成25年度計画を平成26年度後半まで
繰越して延期する場合、平成26年度
の当初計画の補助事業が十分に遂行
できるか検証してください。

繰越事由一覧を参照の上、「繰越事由
（記号等）」を選択してください。